

木々の小枝を揺らす春風に、桜舞い散る季節となりました。この佳き日に多数の御来賓をお招きし、かくも盛大に蒂根字園の開校式を執り行えますことを心より感謝申し上げます。

さて、ここからは前期課程の児童の皆さんには少し難しいお話をしますが、頑張って聞いて下さいね。ほんの少し前に完成したばかりの新校舎は青空の下に輝き、その姿を眺める度に、感慨深い思いが湧き起ってきます。本校は三月に開校した岡谷小学校、大貫小学校、横林小学校、そして蒂根中学校の四校が統合され、新たな義務教育学校としての歩みを始めたばかりです。二三九名の児童生徒と三四名の職員が集う新しい校舎の中は、新しい出会いと未知の経験に対する期待と喜びに満ちあふれています。式典の最後に全校生で奏でる校歌にはそうした思いが余すことなく表現され、歌う人には勇気と決意を、聴く人には励ましと感動を与えてくれる奥深い校歌だと感じています。それはとりもなおさず、作詞をして下さった丑越董先生と作曲をして下さった上野哲生先生、夫妻の蒂根字園の子供たちに対する願いそのものです。

蒂根字園の初めての児童生徒となつた皆さんに、二つのお願ひをしたいと思います。

一つ目は、蒂根字園を作つてくれたたくさん的人に感謝の気持ちを持ち続けようということです。新しい制服や校章などを決めるため、何度も何度も話し合いを続けて下さった地域の方々、栃木県で一番素敵なお学校を作ろうと寝る間も惜しんで計画をして下さった教育委員会の方々、校舎を完成させるために雨の日も雪の日も工事を頑張つていた作業員さん、みんなが大好きな校歌を作つて下さった先生方、お休みを返上して引っ越し作業をして下さったお家の方や先生方など、数え切れないほど沢山の方々の応援を頑張つて蒂根字園は完成しました。その途中には、言葉にできないほどの御苦労があつたことを決して忘れず、感謝の気持ちをいつまでも持ち続けて下さい。

二つ目は、皆さんにはこんな蒂根字園の子供たちになつてほしいという願いを込めて、「負けるな、嘘をつくな、弱い者をいじめるな」という言葉を贈ります。これは刀を持つて戦うことで強さを競つたり、ついている仕事の内容で差別をされていた古い時代の日本を、法律で世の中を治め、誰もが平等に生きられる新しい時代へと導いた政治家をたくさん育てた薩摩藩で最も大切にされた言葉です。「苦しいことに負けずに夢を叶える努力をすること」「嘘をつかずに自分の非を認める誠実な心をもつこと」「思いやりの心を忘れずに弱い者いじめをしないこと」この三つの約束をみんなで守ることができたら、蒂根字園は誰もが幸せに暮らせる楽しい学校になると思います。校長先生は、そんな学校をみんなと一緒に作つていただきたいと思います。そのため一番大切なことは、これまでの自分がどうだったかではなく、これから自分の生き方を真剣に考えることです。それが校歌にある「新しい自分をつくる」ということだと思います。

結じとなりましたが、蒂根字園開校に向けて長年に渡り御尽力頂きました設置準備委員

会の皆様、地域の皆様、開校に向けて苦樂を分からずした校区内四校の教職員の皆様、そして教育委員会他関係者の皆様、これまでのお力添えに心より感謝申し上げます。生まれたての篠根学園はまだ足つきもおぼつかず、乗り越えていかねばならない困難が山積しています。しかしながら、職員一同子供たちと手を取り合って、他に誇れる学校をつくるため全力を尽くす覚悟です。今後とも何卒変わらぬお力添えをお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

令和五年四月十二日

那須塩原市立篠根学園校長 山本幸子